

キャリア教育

**コロナ禍における基礎的、汎用的能力を高めるための LCDS 理論を取り入れた  
課題達成型職業体験学習の工夫**

三条市立第三中学校  
相田 翔平（平成 24 年度）

主張

新学習指導要領の総合的な学習の時間の目標として、「実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。」とある。また、平成 23 年に中央教育審議会から出された「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」によると、「キャリア教育と職業教育の方向性を考えるうえで重要な点」として「社会的・職業的自立や社会・職業への円滑な移行に必要な力を明確化する」ことが必要とされ、その力に含まれる要素として、基礎的、汎用的能力（「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」）の四つの力が挙げられている。

これまでの職業体験学習を振り返ると、それぞれの職場に依頼文書を送り、受け入れていただいていたものの、学校側の希望する体験内容と職場によって体験させていただけの内容に差があり、体験先によって生徒の学びに大きな差が生じていると感じた。また、コロナ禍により、職場体験活動自体が感染症の状況によって、実施の可否が左右される状況が続いていた。そこで、職場に出向いて行う職場体験学習から、協力いただける職場から仕事を請け負い、企業の意向に沿って生徒たちが企画・運営を行う活動を通して、総合的な学習の目指す「自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する」力を高め、振り返りを工夫することで基礎的、汎用的能力を伸ばすことを目指し、取組を進めることにした。活動を通してより基礎的、汎用的能力を高めるために LCDS 理論を取り入れ、身に付けてほしい基礎的、汎用的能力を明示した上での目標設定、振り返りを実施し、生徒が身に付けたい力を意識しながら活動を進めることを狙った。